

# ウオッチング 多摩ニュース

最終号(95)

2022年1月11日

ウオッチング多摩の会

議会傍聴二十二年

ウオッチング

多摩の会を閉じる

いあいさつ

多摩市誕生50年、この半世紀、我が国の経済成長を支え、働く市民の住宅不足解決のために作られたニュータウンは成熟し、次には少子高齢化のまち創りの時となってきました。この間、自治のベースとなるコミュニティ創りのための手立てとして、自治基本条例、議会基本条例等先進的な条例も施行されました。

私たちウオッチングの会は、情報伝達が行政、議会にとつて、時には不都合なことであっても事実を伝えることが、自治のまち創りの礎になることを願って活動してきました。ウオッチング多摩の会を閉じるにあたり、まちの自治はどこまで進んだのか、二十余年の活動を振り返り話し合ってみました。この最終号を一読いただき何かとお役にたてれば幸いです。

ウオッチング多摩の会代表

神津幸夫

## 会員放談

住民自治・住民参加は進んだのか  
反響呼んだ議員通信簿

「ウオッチング多摩の会(W会)」がこの号の発行で、四半世紀に及ぼうとする活動を終える。1998年4月「市議会ウオッチングの会」として発足、多摩市議会や行政の皆さんからはたぶん、時に疎まれつつも議会の傍聴を続けてきた。読者たる多摩市民には時に励まされて発行してきた「ニュース」は、この最終号で95号だ。

この24年はW会の活動にとつてどのような時間だったのか。住民自治は進んだのか。昨年暮れ、会員・賛助会員が唐木田の菖蒲館に集まって放談会風に総括した。出席したのは大津山寿久、加賀谷健治、神津郁子、神津幸夫、高木洋子、半田拓司、増田みつ枝、水野宏、元山隆、山田倫彦、山

内和夫の11人。今号ではその時のメモに基づいてその報告をする。

## スタート時の熱気

A 私どもは市議会や行政にうるさがられることをやってきた。だから終わるにあたって「飛ぶ鳥後を濁さず」というより「後を清く」といきたい。

(メモ)「ニュース」の創刊号(98年10月)の趣旨にはこうある。「(そのころの)市議会では緊張感を欠き、質疑応答は低調で迫力がなく、お粗末な野次が飛びかっています。居眠り、遅刻、私語常習議員も目立ちます」

B 議会はいまもあまり変わっていないね(笑い)。つまり、われわれはあまり役には立ってなかった、かな。

C しかしまあ、市会議員は市民にいちばん身近な代表者でしょう。その彼らを監視してモノを申していく必要があるんじゃないか。そういうのがスタートだったと思う。代表者としてふさわしい人間かどうか、ということですね。議会や議員と対峙しながらやるわけだから、最初は困難なことが多かった。しかしそれが5年後には議員通信簿を出すことにつながっていく。

A 創立会員としてどうですか。

**D** 確かに在籍はしていたんだけど、あまり記憶はないなあ(笑)

**E** 実際に議会を傍聴して現実にその体たらくを知ると、みんな議員は何をやってるんだ、と思うんだと思うよ。実態は議員のモラルに欠けるのもいる。隣の日野市や相模原、町田ではもっと早くからウオッチング活動はやっていたんじゃないか。

**A** そのころ私はまだ仕事をしているときですが、W会のシンポジウムに出たことがある。最近に比べるととても熱気があると感じた。あの熱は何だったんだろう。

**D** 私は引つ張り込まれて入ったほうで(笑)、正直、その気はあまりなかったんです。でも傍聴活動は確かに先行していた相模原なんかから刺激を受けた。議会はまるで幼稚園みたいで、これでいいのか、と思った。みんなのそういう思いがエネルギーになっていたんじゃないかな。

### ダメな議員は落とそうよ

(メモ) 発足の翌年(99年)には地方分権一括法が成立、それまでの中央集権的な行政の在り方が見直され始めた。国から地方に財源も含めて権限が移され「三割自治から地方分権へ」と語られた。各地の住民の活動もそういう時代状況からエネルギーを得ていたに違いない。W会でも発足した98年の秋には大学の政治学の先

生や日野市のウオッチャー、この地域担当の新聞記者などに出てもらって「市議会と市民の新しい関係をめざして」というタイトルでシンポジウムを開いている。副題は「地方分権と住民自治を考える」。

**A** 地域の議員はしつかりしなくちや、という雰囲気はありましたね。

**C** 日野の活動が議員を落選させたのもそのころでしょう。ダメな議員は落とそうよ、という声も出た。

**A** 日野の会の活動の影響で落選したんですか。

**C** そうです。個人がトンがって問題を出していった。1人だとそれができるんだけど、われわれのようにグループでやるとそこまで踏み込めない。W会の中心は公民館の活動でしょう。劇をやっていたメンバーとか。

**E** いまや下火になっちゃったけど、市民の自治活動が各地で盛り上がっていた。地方分権、規制緩和など地方自治に関する動きが出てきてその流れに乗ったんじゃないか。

**C** それがいまじや、自治は死んだんじゃないか、という話が出るほどです。コミュニケーションは住民自治で支え合っていないか、それ拒

む地方自治法の改正とかいろんな動きがあつて(例えば、都市化、規模の巨大化、効率化、合理性、等々)ダメになった。日本をダメにしたのは政治的には小選挙区制ですね。制度の欠点の方にどんどんシフトしていつて自民党だけが強くなった。ほかの党は脆弱でダメな政権を辞めさせるような勢力が成立しない。緊張と競争の原理が作用しなくなった。

### 初期は資質にこだわった

**F** 平成の町村合併も問題だったでしょう。あれでコミュニケーションが崩れた。地域で問題を処理できていた仕組みがなくなってしまった。大本で経済的な効率ばかり求めるから、ほかに手が回らない。それが例えば老人の孤独死につながるんです。最近では、ヤングケアラー問題もあるし。  
**G** 最初のころのことはよくわからないが、W会の自己評価をはっきりさせておけば、初期の活動では議員通信簿が象徴的です。初めは議員の資質にこだわりの議会活動にこだわった。それで議会はよくなるんじゃないかと考えていたかもしれない。いい首長、いい議員をプレッシャーをかけて生み出していくことにウェイトがあつた。だから通信簿。あれには衝撃が走ったな。効果もあつたと思う。大きな

流れの中で議員が市民の動向にきちんと対応しなくちゃいけないという気分を作った。それは重要なことだったと思えますね。

(メモ) 議員通信簿は3回出ている。03年、07年、11年と4年置きのいずれも3月。翌月の市議選にブツけたのだ。03年3月に出した最初の通信簿には「傍聴席でウオッチしてきたことを何らかの形でみなさんにお伝えし、投票のご参考に供しよう」と狙いを書き、各市議の一般質問を対象に、客観性を持たせようと公約質問率、残し時間、行政の答弁時間を議会事務局で調べた数字を掲載した。評判を呼んだのは市議1人1人への寸評だ。「行政批判に迫力あり」「質疑は論理的できめが細かい」などの評価も見られるが「時に高圧的な言動」「議会改革意欲なし」「私語、ヤジの震源地」「議員としての言動、品位に欠ける」など痛烈な一言も並ぶ。傍聴席からの日ごころの観察があればこそその評である。

## 議員通信簿のインパクト

H ラジオ局で15年間パーソナリティをやっていたことがあります、ある意味でそれは市民活動を活性化させる仕事だったと思う。そういう私も通信簿を見たときは衝撃的でした。

(メモ) この通信簿は社会的な話題になって大手3紙をはじめ多くのマスコミに取り上げられた。

朝日新聞は選挙が終わってからも社説で「市民が目をこらしていれば、いい加減な質問はできない」と論じ、こういう活動が「議会を活発にさせる第一歩になるだろう」と書いた。それ以前の99年市議選では、準備不足で通信簿は出せず、代わりに選挙後に新市議28人(当時)に対してアンケートを行った。質問項目は公約、立法機能、行政との関係、市民との関係、議会活動の5つに分かれ、市民的な関心の高い事柄について具体的に聞いており、ほとんどの会派から統一回答を得た。

A 傍聴して議員の質問と行政の答えを「ニュース」ですつと出すのが基本的な活動だった。だから通信簿はインパクトがあったんでしょね。

(メモ) 3回を通じて市議からの不平は、表面はほとんど聞こえてこなかった。電話でクレームをつけてきたのはたった1例。11年の通信簿で落第点をつけられた市議からだった。選挙期間中、毎日のように「勝手な主観じたいない」「迷惑だ」「訴えてやる」などと電話で息巻いた。病気がちだったこの市議への寸評は「体力にも資質にも欠ける」。評価は26議員中たった1人「不可」だった。

## 市民主導で自治条例

A その後は傍聴者も少なくなり大勢で

の議論ができなくなった。それで主要な関心は市民自治を何とか広げていこう、ということになっていったと思う。多摩市の自治基本条例がもう施行されて(04年8月)、全国的にかなり評判になっていた。今の阿部市長はその後に市長になった人だが、何かというと「立派な条例」と繰り返す言うが、どれだけ活用しているか疑問だ。

(メモ) この条例は市からの呼び掛けに市民が応え、自主的に積極的に参加して市の職員、市議ともどもワークショップを積み重ねて市民が主導するというユニークな手法で作りに上げられた。条例を「つくる会」のスタートは01年1月。その年の11月には北海道ニセコ町長逢坂誠二氏、中央大学の辻山幸宣教員を招いて中間報告のためのフォーラムを開き、市内外から100人が集まった。ニセコ町はこの種条例の先駆けになった町で、逢坂町長がその後北海道地区選出の政治家として現在は立憲民主党の代表代行であるのはご存じの通り。

I 「100人も来たのでこれはやれるな、と思いますね。こういうものは市民が先頭を切って歩かなくちゃしょうがない。同じようなことは当時、全国ではやっていなかったから多摩市でもやろうやということだったと思う。逢坂さんはとても熱心だ

った。その彼にフォーラムで「期待する」と言われて盛り上がったですね。

（メモ）条例は市民論議による素案↓行政の検討↓議会審議を経て2024年3月に成立（施行は8月）。市のホームページでは「多摩市の憲法」として「条例や規則の最高位に位置する」とされている。

I 条例の法律的なこと、専門家に相談した。独特な用語を使わないとナメられるらしいが、あえてやさしい言葉を使っただんです。条例を作ったら行政の若手が目覚めて元気になりましたね。

A それが先日、市役所で自治条例をもらおうと思ったら、若い職員に「製本したものはありません」と言われコピーして貰ったんですが思わず声を荒げてしまうような状況です。

### 直接民主主義への志向

G W会との関係で言うと、初期は議員の資質、議会の役割を問うというやり方だったけど、地方の議員は選挙で支持者を1軒1軒回るドブ板選挙で成立しているんですね。選挙に勝っても支持者に囲込まれている。議会での質問も行政にやっもらうようなところがある。そういう状況にW会は違うところからメスを入れ

たんだが、地方の時代と言われて自治体が全国的に問われるようになった。それが自治基本条例の制定に結びついていくという流れだと思えます。

J そう。それと直接民主主義への志向とどうか。地方自治は2元代表制などと言うけど間接民主主義の限界はもう目に見えていたんじゃないか。自治基本条例によって直接民主主義的なことを取り入れようという動きはそれを反映している。

そういう時代なのにいまの阿部市長は直接民主主義的な住民投票には積極的に対応しようと思わず、市長の裁量権でコマ化してきたんです。W会としては例のパルテノン多摩の改修や市立の中央図書館新設の問題では、自治基本条例によって住民参加の主張を続けてきたんですがね。

（メモ）W会はパルテノン大規模修繕の説明会などにも参加し、多額の予算計上などにつき再三意見を述べた。中央図書館建設についても、当時、市長は公共施設の見直し再配置計画も進めていたが、W会は新設のハコモノ建設についてのハードよりもソフト面への投資を優先すべきと主張した。結果的にはパルテノン本体工事費当初予算8億円が2億円、中央図書館当初予算18億円が12億円となり現在工事が進行中。

### 市長裁量権にツブされた

G 市（行政・議会）は最初から自分たちの裁量権による決着を目指していたものと思われる。そういう意味では、この「住民参加」は自治基本条例いうところの「住民自治決定権」とはかなりかけ離れたパフォーマンスであったと思う。議会に特別委員会を作ってコンサル依存の「複数案」による住民説明会を行ったが、案の優劣が示されており誘導的な意図があらさまであった。多摩市は革新自治体ということになっていくらしいが、行政への住民参加という地方自治のいちばん基本的な要素を、こうやって行政の裁量権によってツブされてきているんです。W会としてはいろんな機会をとらえてモノを言ってきたが、全部ゴマ化された。これからどうするか、それがいちばんの問題でしょう。

A 自分たちの生活の上でこの条例によって、具体的に支えられたと感じたことなどはありましたか。例えば介護保険の関係で、それまではケアマネジャーに任せ てきたものを自分で書くと言った時の担当者の対応に驚いたけど。

K 市民の権利とかじゃなくて、自分がやりたいことなんだと申し入れをしたんですが無視されました。

**A** 条例は市役所の壁に張り出してある。「あれを見なさい」と言っただけでやった方が良かった。

**K** こんないいものがあるのに知らなかった。その程度なんでしょう。

**J** 公民館活動をやってきているが、やりやすい。講座などに関してはこの条例があつたからよかつたと感じている。

**G** 条例を具体化するための細目は行政や議会が主体的に取り組むべきテーマなんだが、やってませぬねえ。無視している。

**I** 条例自体は基本原則を定めたものだから細則がないと具体化に手間取る。住民投票についても実施の具体的な仕様を盛り込んでない。

**G** いや、現行のままでも、住民投票の結果を受けて議会がそれを尊重・決定すれば強制力を持つしそのはずだった。パルテノン問題でも住民投票にかけるべきだったんだ。

答えは「承りました」だけ

**A** 阿部市長も最初は住民自治を強調していたし、今でもこの条例を、ことあるごとに「立派な条例」と言っているから、内心忸怩たるものがあるのか、常設型住民投票

制度を条例に規定のある自治推進委員会に住民投票の在り方について諮問しましたね。委員会は「やるべし」と答申した。

**C** 答えは「承りました」だけだった。選対の代表者を住民投票をやるんなら引き受けますよとも言ったが、当選したら反故にする。選挙民に選ばれた代表者なんだからと議会は無視する、自己保身に走る。対立的な案件は避ける。その方がラクだから。

**A** 市民自治が阿部市長の目玉だった。それで応援してきたのに何もやってないじゃないか、という声は多いですよ。

**G** 将来のことを考えたならやらない方が受けはよくなる、と計算したんでしょう。それで長期政権になった。

**A** 住民投票の規定を読む限り、市長の権限でやれることは大きい。しかし市長が変わっても恒常的なものを作る必要があつたので、推進委員会は常設型住民投票制度を「やるべし」だったのにその機会を奪われた。

市長がやる気ならやれる

**G** 本当の自己決定権はわれわれの方にはないんですね。しかし市長にやる気があれば、この条例でもやれるんだ。しかし市長は自らの裁量権にこだわり、住民の自

己決定権を否定してきたんだ  
**C** その通り。市長選の目玉だったしやれるんですよ。

**A** 「陳情」「政策提案」という手法にも本質的な問題がある。市民から、議員定数の削減や報酬についての陳情や政策提案などがあっても議会は趣旨採択で終わり、「気持ちちは分かるが採択しません」ということです。議員が自ら身を切ることは難しい。しかし市民自治を標榜する市長は市民の声を議会で取り上げ議論してこそ二元代表制の意義がある。

**C** 市民主体という思想をきちんとしておかないと市民自治は成立しないんだ。

**A** どうしたらいいですかねえ。

**G** 地域の問題に興味を持つような教育が必要なんだと思いますね。それを作らないと。今は子どもが政治に興味を持つのはよくないことになっているじゃないですか。

**A** そうかもしれないけど、せっかく住民参加、市民が決定するまちと、うたっていても、何も通らないのでは。

**C** 世の中は人が変えるのだからそういう人を選ばないと、ということになるが、やる気のある人は野心家だからなあ(笑い)

オール与党の問題

**G** 阿部市長の独自性は何か、と考えるとよく分らない。いまの問題は議会がオール与党になったということでしょう。そこに市民は入り切れない。共産党の議員に「なぜ市長を支持するのか」と聞いたことがある。答えは「これだけ市民と話合う市長はいない」。中身じゃないんだ。つまり議会に批判勢力はいない。政党政治の困い込みになっている。市民独自の第3者的な目とムーブメントを作り出さないといけないんです。

(メモ) フランスで去年出来た気候変動関係の法律の成立過程の話が出た。全国から抽選で選ばれた100人の市民代表が政策討議を重ね、多数意見として認知されたものに基づいて行政が法案を作り国会審議を経て成立という経過だ。ここでは立法に議会ではなく市民が最初から深くかかわっている。直接民主主義へと動く例の1つだろう。

**C** それが民主主義の原点ですね。スイスの地方の小さな町の直接民主制でも、お祭りでもなんでも話し合いでやっている。

**A** 日本に住民参加で自治が行われている町はあるんですかね。

**C** ないんじゃないですかねえ。かつてはあったけど町村合併でダメになった。小さいところを生かすことがなぜできないか。共同体はデカくちやうまくいかないんだ

けどねえ。

### 辛口情報発信の場を

(メモ) 最後に進行役の「われわれとしては24年間、市民や行政に対してさまざまな問題提起をしてきたつもりだが、現状は住民自治、住民参加といえるようなレベルからはほど遠い、と言わざるを得ない。W会の活動は閉じるとして、しかしキチンとしたことを言えるような場所は残しておいたほうがいいだろう」との発言を受けて出てきた発言をいくつか紹介しておこう。

**J** 模様替えをして継続というのはどうか。市長や議会に緊張感を持たせてまじめに仕事をやらせる必要があるのだから。若者を入れてやってみよう。

**C** ずうつと言われてきたことで試みては来ているんだが、なかなかうまくいかない。別の形で若者が立ち上げるかどうかではないか。既存の組織の中に若者を入れるのは難しい。続けるのも大事だが、潮時もあるような気がする。

**J** 大学の政治学科の活動としてやってみたらいいんじゃないか。

**D** ITに詳しい人を軸にして拠点を作ってもらって、そこに投稿するとか。

**G** 市政に関してW会が出すような辛口情

報を望んでいる人はいると思う。それが途絶えるのは、やはりもったいない。常設の研究会を立ち上げて必要な情報を発信していったらいいんじゃないか。

(メモ) W会の活動が終わるといふ話が伝わって、1人の市議が言った。「傍聴する人がいなくなると議会はダメになりますね。きつとダラける」

**A** 世界は様々ななかたちでデカップリングの様相を呈している。多摩市は高齢者が増え子供が少ない時代となるので、この著しいジェネレーションギャップの特徴を生かして、若いも若きもともに支え合えるカップリングの素敵なまちにならないだろうか。隣の多摩境は住みたいまちの三位にランクイン、この違いは何だろう。これまでの多額なハコモノ投資は手段であって目的ではない。リーダーにはこの手段を次の人資本のまち創りを期待してW会を閉じます。

終わりに

長年のお付き合い有難うございました。

ウオッチング多摩ニュース「最終版」への

ご意見・感想などありましたら左記へ。

ウオッチング多摩の会 代表 神津幸夫

TEL : 042-372-9496

Mail : [kouzun@adagio.ocn.ne.jp](mailto:kouzun@adagio.ocn.ne.jp)